

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 北九州市 】

学校名【 北九州市立洞北中学校 】

1 実践テーマ	I・II・(III)・IV・(V)(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> 対象学年：第2学年、210名、第3学年 191名 職員約20名 保護者や地域の方は、参加していない。
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (○) ② 行事名 (○) ③ その他 () <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ① 車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害を持った方たちと共生する社会について考える。 ② リオパラリンピック日本代表(女子ダブルス 4 位)二條実穂選手の体験談を聞いたり、競技用車いすの使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>◎事前学習</p> <p>＜第2学年＞ 総合的な学習の時間に、「共生社会」をテーマに、実際の生活と関連付けて考える学習を行った（資料 impossible を使用）。</p> <p>＜第3学年＞ 保健体育科の保健分野の授業で、東京オリンピック・パラリンピック2020についての振り返りとスポーツの文化的意義についての授業を行った。</p> <p>◎当日の取組</p> <p>＜2・3校時＞ 第2学年（1～3組）105名 講演会と車いす体験学習、質問タイム</p> <p>＜4校時＞ 第3学年（全クラス）191名 講演会、質問タイム</p> <p>＜5・6校時＞ 第2学年（4～6組）105名 講演会と車いす体験学習、質問タイム</p>

	<p>◎事後指導 第2学年・第3学年ともに感想文を書く。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> •東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される前ということもあり、生徒の興味関心が高く、有意義な時間となった。 •車いすテニスの二条選手の講演会では、スポーツ選手としての経験や大切にしてきたことなどを、映像や体験談をもとに分かりやすく説明していただいた。 •障害者に対する理解についての学習を含め、人権教育の視点から、共生社会について考えを深めることができた。また、その共生社会で自分たちがどのように生きるか、自分の目標へとつなぐことができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> •スポーツの側面だけでなく、人権学習や保健体育科の保健分野とも連携して事前学習を行ったことで、生徒も理解しやすく、考えを深めることができた。 •二条選手の車いすでの移動や対応がスムーズに行えた。 •二条選手のご厚意で、めったに乗ることができない競技用車いすを体験することができた。 •人数が多いため、生徒を2グループに分けて実施した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> •講演会だけではなく、体験学習があるとより関心が深まる。生徒数の多い学校では、クラスを分けて実施するなどの工夫が必要である。 •事前に二条選手と打ち合わせをして、送迎や用具の準備などを進める必要がある。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> •SDGSとも関連して、共生社会に対する理解を深めるとともに、共生社会に貢献できる人材育成の取組に発展させていきたい。 •大会開催後も、引き続き取り組みを推進していくことで、東京2020大会後に価値あるレガシーを残していきたいと考えている。